

平成 23 年度安全保障学生講座のご案内

■年間テーマ 【日本を支える若者と日本】

未曾有の大災害に直面し、我々は日本を強く意識したと思います。しかし、日本を意識しただけでは何をすればいいのかについて答えが出てくるわけではありません。

東日本大震災を乗り越え、強い日本を体現していくためにはこれからを支える若者の躍起が必須です。そしてその若者が日本のために立ち上がるためにも、日本のもとに集い活動している姿を若者に伝えることが重要であると考えられます。

まさしく前線で活動する自衛隊を取り上げて、若者が日本及び国家を考える機会を提供することを目的とし、本講座を開講いたします。

※以下の講座内容は暫定的なものです。適宜、時事的トピックを取り入れ、最終的な案内は1ヶ月前をめどに行います。

■各回テーマとその内容

第1回 自衛隊を知る—東日本大震災を皮切りに—（平成23年6月2日（木）予定）

東日本大震災において、自衛隊はクローズアップされることになりました。その自衛隊は具体的にどのような活動をしていたのでしょうか。また、これまでも自衛隊は災害救助をはじめとする様々な活動をしてきましたが、それらについても触れたいと思います。

とはいえ、自衛隊とは災害救助をするためだけの存在ではありません。では、自衛隊とはどのような存在なのでしょうか。また、自衛隊の活動において災害救助はどういった位置づけになるのでしょうか。その点についても考えていく機会としたいと思います。

第2回 自衛隊の意義を学ぶ—安全保障的観点を取り入れて—（平成23年7月下旬～8月上旬）

自衛隊の存在は国家においていかなる意義を有するのか。これを安全保障及び国防の観点から検討します。

そして国防という大局観から自衛隊および周辺機関の現況についての検討を行います（国防の基本方針、防衛計画大綱や中期防衛計画を参考資料として配布予定）。

また、自衛隊に対する現在の社会の反応も取り扱おうと思います（戦後日本の自衛隊や警察官に対する反応について取り扱う必要もあるかと思えます。例えば日教組の反応などがあげられます）。

※現職の自衛官にご参加いただく予定です。

第3回 国家の組織上の問題—自衛隊および防衛省からみる—（平成23年9月下旬～10月上旬）

国防という観点から析出された問題点を国家組織という観点から考えます。それにあたり、自衛隊に関わる国家組織について触れます。国家安全保障会議（NSC）構想や「縦割り行政」と揶揄される問題についても触れ、どういった組織が必要なのかについて検討します。

第4回 国家を支える人材育成について（平成23年11月下旬～12月上旬）

国家を語るにあたって組織上の議論をすれば十分ではありません。組織を支える人材をどう育てるかも重要な問題であるといえます。

組織を支える人材の育て方について考えるにあたり、自衛隊の人材育成について扱います。自衛隊の兵卒および幹部がいかにして育成されるのか、また東日本大震災で話題になった予備自衛官といった存在についても触れます。

※昨年の学生講座で取り扱った「技術力と安全保障」を踏まえ、理系と文系の区別の意味について更に検討していく予定です。

第5回 これからを支える若者へ—人生論にも触れながら—（平成24年2月下旬～3月上旬）

第1回から第4回を踏まえての総括となります。

■開催要項

- ・会場は都内の公共施設を用いる。
- ・平日の夜間（18時～20時）に行う。
- ・会費は1000円とする。
- ・Cubic Argumentのウェブサイトにて実施の告知及び事後に資料の配布を行う。
- ・最小催行人数は10人とし、毎回20名以上の参加人数を目標とする。
- ・参加者には2010年度安全保障学生講座のレポートを配布する。

Cubic Argument 代表 大江 弘之